

【ARB】**「アジルバ®」「オルメテック®」**など  
アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬

【ACE-i】**「レニベース®」「タナトリル®」**など  
アンジオテンシン変換酵素阻害薬

【ARNI】**「エンレスト®」**など  
アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬

**【後発品含め他にも多数の該当薬あります！】**

**レニン-アンジオテンシン系阻害作用**を持つ薬品の

**胎児への影響と妊婦への投与禁忌の再確認**

当院に限らず、日本で最も使用されている降圧剤・糖尿病性腎症・心不全治療剤の『レニン-アンジオテンシン系阻害作用を持つ医薬品（以下「RA系阻害剤」と表記）』は、多数の医薬品が販売され処方量も甚大なことから、本来妊婦には投与禁忌にも関わらず、若年女性に投与して後日妊娠が判明したなどの危険な症例が多数報告されています。

胎児の肺の低形成のため、生後すぐ（約15時間後）に胎児死亡となった重篤例も報告され、改めて厚生労働省等から注意喚起されています。当院でも、RA系阻害薬を女性に投与している例は、定期的な妊娠の有無を診察時に確認して、処方時には妊娠時の注意説明を行うことが必要となります。処方例が多いため、医師に限らず、すべてのスタッフが注意点を理解することが必要です。別添の「PMDAからの医薬品適正使用のお願い No.10（2023年5月）」には詳細な症例の記載や対象となる医薬品の一覧がありますので合わせてよく確認をお願いします。

**RA系阻害薬は胎児悪影響のため妊婦に禁忌です！**

**妊娠したことが把握されず投与した例もあります**

相次ぐ不適切使用の報告を受けて、RA系阻害薬の妊婦への注意喚起が強化されています。当院でも、女性への投与は十分に確認してください。

★電子添文「使用上の注意」改訂内容★

- RA系阻害薬の投与前及び投与中に妊娠していない事を確認すること
- 投与中に妊娠が判明した場合は、直ちにRA系阻害薬の投与を中止すること
- RA系阻害薬が胎児等に与える影響を説明し、妊娠が判明した または 疑われる場合、妊娠を計画する場合は、担当医などに相談するように繰り返し患者へ説明すること

【参考資料】

1. 『レニン-アンジオテンシン系阻害作用を有する医薬品（ACE阻害薬、ARB等）の胎児等への影響と注意事項について（PMDAからの医薬品適正使用のお願い No.10）』

2023年5月更新 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構（PMDA）

2. 『医薬品・医療機器等安全性情報 No.401』

2023年5月 厚生労働省医薬・生活衛生局